



## ～ 自他共栄～ NO.38

2025年5月21日

発行責任者 根岸 大智

編集責任者 情 宣 部

### 復帰から53年 5月15日は沖縄本土復帰記念日 沖縄の“いま”を知り、未来を考える。

1972年5月15日。終戦後、米軍の占領下におかれた沖縄が日本に返還されました。“核も基地もない緑豊かな沖縄”を願って本土復帰を果たしたものの、日米安保のもとに米軍は駐屯し続け、国土の1%にも満たない沖縄の地に、在日米軍の74%が集中する状況となりました。さらに、「台湾有事」を想定した防衛力強化の名目で、日米両政府主導のもと急速な軍事要塞化が進行しています。

この写真は、沖縄県宜野湾市にある米軍普天間基地のわきに立つ「佐喜真美術館」の屋上から撮影したものです。手前の柵から奥が普天間基地の敷地となり、柵の向こう側には沖縄の伝統的なお墓があります。この墓の持ち主はご先祖様に対し、1945年から現在に至るまで、米軍の許可なしに、正面から手を合わせる事ができなくなりました。



← 昨年の沖縄平和研修の様子はこちら

青年部は5月18日、中央本部で「2025 復帰53年！沖縄平和研修」を開催しました。例年は沖縄の地で「平和行進」「平和研修」を実施していましたが、今年は財政上の理由で規模を縮小しての開催となりました。



当日は全国から26名の青年部員が結集し、三上智恵監督・映画『戦雲』を視聴しました。防衛力・抑止力強化のために民意を無視して自衛隊基地が次々に建設されていく現実と、それを目の当たりにしている現地住民の怒りと葛藤を映したドキュメンタリーを観て、沖縄が抱える基地問題の本質を学びました。

その後、映画の内容を踏まえた全体討論を行ない、「**貨物が扱っているコンテナと似たものが、映画の中で弾薬輸送に使われており、複雑な気持ちになった**」などの感想が出されました。また、「**自分たちが住む地域にも自衛隊や米軍の基地があり、騒音や土壌・水質汚染の問題が発生しているにも関わらず、声を上げる運動をしていない。**」との気づきから、引き続きこうした映像資料も活用しつつ、**平和運動の展開と政治への関心を高める取り組みを続けることが重要**であることを確認しました。

**弾薬庫建設、ミサイル配備は沖縄だけの問題ではない！  
権利意識を持って、平和を希求する声を自分たちから上げていこう！！**